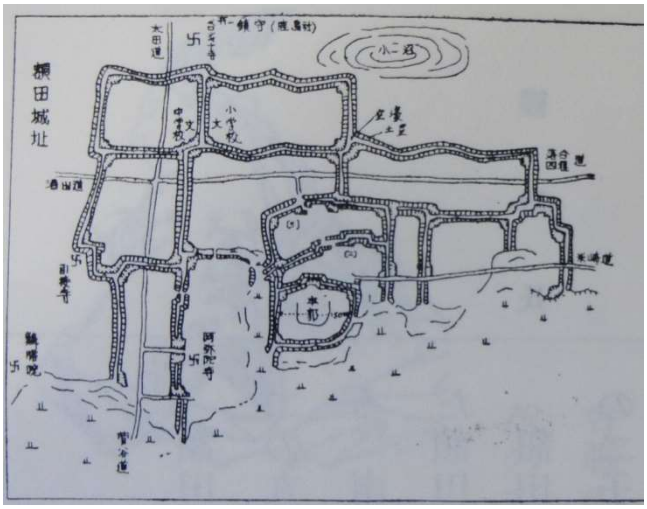
額 田 城 跡

那珂市歴史民俗資料館



額田城は、佐竹氏 5 代義重の第 2 子義直が額田を領して額田氏を名乗り、鎌倉時代の中期(建長年間 1249～55)のころに築いたものです。南北朝時代(14 世紀)の 6 代義兼は足利尊氏の北朝方に味方して戦い、東寺に戦死しています。10 代の義亮は、応永 30 年(1423)山入与義と共に本家が上杉氏から養子を迎える相続問題に端を発して佐竹氏 12 代義人と戦いましたが敗れ、前の額田氏は 10 代 170 年で滅亡しました。

そこで本家の佐竹義憲は、家臣の小野崎通業の孫通重を額田城主としました。通重には子が無く、水戸城にいた江戸通房の子通栄を養子としました。額田小野崎氏は「額田七百騎」と称されるほどの権威をもって国中に勢威を振るいました。額田氏 7 代の昭通は、天正 16 年(1588)に江戸重通の家臣神生右衛門太夫が額田氏に救いを求めたことから江戸氏と対立します。江戸氏は本家佐竹義重と結んで対抗してきましたが、額田昭通は南下作戦をとる出羽山形の伊達政宗と通じて義重に備えました。天正 19 年(1591)2 月、義重・義宣父子は昭通を攻めて落城させました。後の額田氏は 7 代 165 年続きました。

昭通は脱出して伊達政宗の庇護を受け、さらに松平忠輝に仕え、忠輝改易後は常陸へ帰り水戸徳川家に仕えて額田久兵衛と称しました。額田氏は、佐竹氏系・小野崎系・江戸氏系と併せて 335 年続いたことになります。

その間に整備・拡張されてきた城跡は、額田地区のほぼ中央に位置します。南は断崖で有ケ池に突出し、内堀・外堀と幾重もの空堀や土塁をめぐらす要害であり、中世の代表的な城郭です。現在、初代義直の供養塔が西方の鱗勝院にあり、城域を示す掘跡・土塁跡は部分的ながら引接寺・阿弥陀寺・額田神社周辺にと広範囲に及んでいます。

本丸跡・二の丸跡の形はほぼ完全な姿で残っており、那珂市指定文化財に指定されています。

【額田氏略系図】 「＝」は養嗣子(ようしし)

(前の額田氏) **佐竹**義直 － 義基 － 実義 － 泰義 － 義教 － 義兼[6] ＝ 昌直 － 秀直 － 義連 － 義亮[10]

(後の額田氏) **小野崎**通重 ＝ **江戸**通栄 － 就通 － 盛通 － 篤通 － 従通 － 昭通[7]

(義通、善通とも言う)　(のちに照通)

※（前の額田氏）は『那珂町史』中世 P92（『新編常陸国誌』）、（後の額田氏）は『那珂市ゆかりの先人たち』P21 による。
※ 額田城主は①佐竹氏系、②小野崎氏系、③江戸氏系の３系統がある。